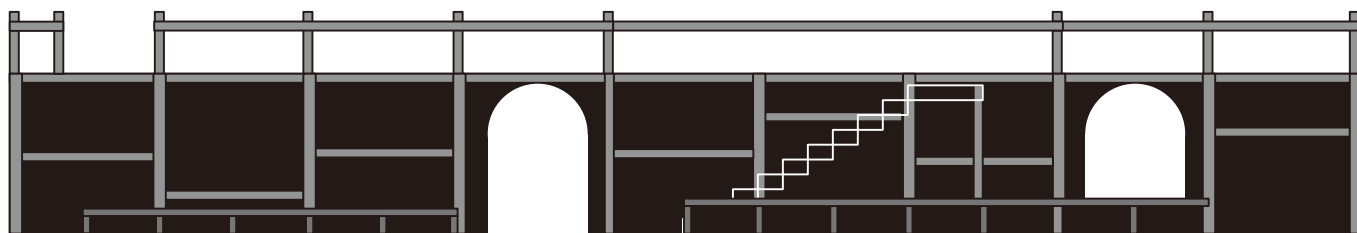


【道具帳 〔美術〕 猪股孝之】

沖縄芝居は場面に応じて、沖縄の古き良き時代の風景を描き出した背景幕、パネルや簡易なセットなどの舞台美術・装置を用いて演じられてきました。近年、沖縄芝居実験劇場(大城立裕、幸喜良秀を中心とした演劇集団)の舞台等で、抽象的な舞台

美術を用いた挑戦的な新作も次々と誕生しています。本作品においても、作品の構成上、観客の想像力を駆使し、物語の展開を効果的に表現できるよう、猪股孝之氏のデザインによる抽象的な舞台セットを用いました。



【稽古風景写真】



ブレヒト×沖縄芝居新作プロジェクト2023-2025

2025年 12.14 日
14:00開演

原作：ベルトルト・ブレヒト
『ゼチュアンの善人』
(翻訳：林 立騎、構成：新井章仁)より

作・演出
嘉数道彦

振付：阿嘉 修
音楽：仲村逸夫
協力：沖縄芝居研究会

美らさる花、咲かしうーさん
世ぬ中どうなとーがやー

沖縄芝居

はなづみぐわーぬ
花染小の美ら姉
ちゅらんみー

主 催：那覇市 企画制作：那覇文化芸術劇場なはーと シアター・クリエイト株式会社

花染小の美ら姉

ごあいさつ

本日は、プレヒト×沖縄芝居新作プロジェクト2023～2025沖縄芝居『花染小の美ら姉』にご来場いただき誠にありがとうございます。

いよいよ、ドイツの劇作家・演出家のベルトルト・プレヒトによる『ゼチュアンの善人』（1940年）を下敷きに、琉球芸能実演家で演出家の嘉数道彦氏による脚本・演出で「沖縄芝居」の新作として創作し、2025年12月に大劇場で上演する3年をかけたプロジェクトの集大成のお披露目となります。

1年目は、なは一との林立騎が新たに翻訳した『ゼチュアンの善人』から、劇団ビーチロックの主宰・演出家の新井章仁氏が上演台本を構成・演出し、沖縄の現代演劇界を牽引する俳優のみなさんが演じる現代演劇でのリーディング公演。2年目は、その上演を観た嘉数道彦氏が沖縄芝居の新作戯曲『花染小の美ら姉』を創作し、朗読劇として上演。物語

作・演出より

『ゼチュアンの善人』を沖縄芝居として上演したいと、なは一との土屋わかこプロデューサーから初めてお話を頂いたのは、2022年5月、京都で開催された琉球芸能公演の打ち上げの一席だったと記憶している。情熱あふれる画期的な企画に興味はあるが、戯曲そのもの、また作者のプレヒト自体に関しても全く無知な私に、沖縄へ帰ると早速『ゼチュアンの善人』の台本が届いた。

ドイツの劇作家が今から80年あまり前に書いた戯曲を、沖縄芝居にすることは果たして可能なのか。逆に考えると、沖縄の名作歌劇『伊江島ハンドー小』や『奥山の牡丹』が、海外で演劇やオペラに形を変え上演されることは可能なのかと、ふと考えてみる。娯楽としての沖縄芝居独自の魅力、日本語に訳することのできないうちなーぐちの妙味、うちなーちゅの情念が、どのように扱われるのだろうか。表面をなぞるだけの挑戦はしたくないし、してはいけないと思うのは自然なことであろう。創作には不安がつきものだが、時代や場所が異なっても、人間の普遍的な思いは通ずると信じ、自らの感覚と感性に任せ、沖縄芝居として模索しながら形作ることにした。

社会の中で生まれる格差、そのうえで生きていくために抱かざるを得ない善悪の感情は、誰もが持ち合わせているもの。美しくありたいと思う

【プロフィール】 1979年、沖縄県那覇市生まれ。幼少の頃より初代宮城能造・宮城能里に琉球舞踊を師事。宮城流能里乃会師範。沖縄タイムス社芸術選奨大賞受賞。第三十九回松尾芸能賞舞踊部門新人賞受賞。沖縄県立芸術大学在学中より新作組踊や新作沖縄芝居の脚本・演出を手がける。同大非常勤講師を経て、13 年～22 年3 月まで国立劇場おきなわ芸術監督を務める。現在、沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻准教授。

や台詞を中心にお楽しみいただきました。そして、最終年はなは一と大劇場で、沖縄芝居として大劇場の大舞台上で上演いたします。

異なる時代、文化、国の作家が書き上げた演劇作品が、嘉数氏はじめ新井氏、出演者、演奏、スタッフ等、沖縄の現代演劇、伝統芸能のそれぞれの分野で活躍する方々のお力を借り、いまの観客のみなさんに届けるべき沖縄芝居の新作が誕生いたしました。終演後には、ぜひ近くのかたと感想をお話いただき、より深くお楽しみいただければ幸いです。

さらに今回は、那覇市民から募集した出演者のみなさんが、うちなーぐちの台詞、歌、踊りに挑戦し盛り上げていただきます。どのような場面で登場するのか、合わせてお楽しみください。

最後に、本日のためにご尽力いただきました全ての関係者のみなさまに、厚く御礼申し上げます。

那覇文化芸術劇場なは一と

心と、その裏に潜む欲望、生きていくことの尊さと醜さ、命ある者の宿命が散りばめられた作品に心を通わせ、沖縄ならではの表現を求めた。原作そのものからかなりのズレが生じていること、別物となっていることは承知のうえだが、作者がこの作品を通して訴えたい主題・本質にどうにか寄り添っていきたいという思いに変わりはない。かつて様々な異国の文化を吸収しながら、独自の沖縄観を先人たちは築いてきた。未熟ながら私も本作品に向き合い、沖縄芝居の表現に基づきながら、現代のうちなーちゅの感情が揺さぶられる瞬間をまずは探ることができればと思う。時空を超えた感動と同時に、沖縄芝居ならではの多様な魅力を発見し、発信する機会となれば何よりである。

心強い演者とスタッフの力に支えられながら、個性あふれる市民出演者の熱意も相まった新しい沖縄芝居を、お客様にご覧頂けることは心から嬉しい限りで、感謝の念に堪えない。昨今、県外における沖縄芝居の上演機会が増えてきた。来年は、本作品のスタート地点となった京都、春秋座（京都芸術大学）で名作歌劇『奥山の牡丹』が上演される。紡がれてきた思いを大切にしながらも、県内にとどまることなく、沖縄芝居の魅力と果てしない可能性を追い求め、多くの方々と共有していきたい。

嘉数 道彦

那覇文化芸術劇場
なは一と

×

嘉数 道彦

軌跡

2023年度 | 組踊たいそう



[作詞・構成] 嘉数道彦 [振付] 阿嘉修
[音楽] 仲村逸夫 [撮影] 三上一行

2021年度 | 唐人相撲～なは一と編～



[構成] 野村萬斎・嘉数道彦
[撮影] 大城洋平

2024年度 | かりゆし・かりゆし～恋するシーサー



[作・演出] 嘉数道彦 [振付] 阿嘉修
[音楽] 仲村逸夫 [撮影] 大城洋平

2023年度 | 組踊版『スイミー』



[作・演出] 嘉数道彦 [振付] 阿嘉修
[音楽] 仲村逸夫 [撮影] 三上一行

2025年度 | 組踊版『さるかに合戦』



[作・演出] 嘉数道彦 [振付] 阿嘉修
[音楽] 仲村逸夫 [撮影] 大城洋平

あらすじ

渡地の浜辺。ユタアンマーは、神さまから宿を探そう命じられたが、神々のみすぼらしい姿に村の者たちは誰ひとり宿を貸さず、困り果てていた。そこで、尾類のカミー小に相談すると快く受け入れ、神々も彼女の善良さを絶賛し、お礼にと大金を残して去っていった。そのお金を元手に、カミー小は「花染小」という店を始めるのだが…。

出演



カミー小／カナムイ
知念 亜希
玉城流翔節会師範
我知古唐佐子に師事



ユタアンマー
玉城 匠
宮城流舞會教師
宮城豊子、島袋美智子に師事



神一・波の上の坊主
東江 裕吉
玉城流玉扇福珠会師範
玉城静江・組踊を宮城能鳳に師事



神二・唐人
金城 真次
玉城流扇寿会師範
谷田嘉子・金城美枝子に師事



神三・主ぬ前
宇座 仁一
宮城元流能史之会師範
宮城能史・宮城 能之に師事



松金
宮城 茂雄
宮城流師範
二代目宮城能造に師事



松金の母
花岡 尚子
劇団うない所属
演嘉数流師範、二代目演嘉数守良
兼城通子、中曾根律子に師事



マカデー
伊良波 さゆき
沖縄芝居研究会代表
伊良波晃・苅子に師事



ウトゥー
伊禮門 綾
劇団綾船
平良進、平良とみに師事



ヒージャー小
知花 小百合
琉球舞踊朱日流 師範



糸満の青年
高宮城 実人
琉球歌劇保存会理事長
北村三郎、堀文子、大重見小太郎に師事

地謡



歌三線
仲村 逸夫
琉球古典音楽野村流保存会師範
比嘉康春に師事



歌三線
玉城 和樹
琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範
西江善春に師事



歌三線
平良 大
琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範
濱元盛爾に師事



箏
池間 北斗
琉球伝統事曲琉絃会師範
又吉貞子に師事



笛
入嵩西 諭
琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範
大溝 清之に師事



太鼓
久志大樹
光史流太鼓保存会師範
島袋光史・比嘉聰に師事

那覇市民出演者



カミジャー
石底あに加



マチャー
内嶺有梨沙



東門の妻アンマー
大城和枝



尾類チル小
木下美芸



尾類モーサー小
島袋実有



尾類カマドッ小
高橋晶子



東門の主
高良 貴



ユタ・グジー
田中洋子



下門の妻アンマー
中川信子



サンラー
増田裕子



下門の主
宮城元子



タラー
山田一覇



カナシー小
渡瀬善久

スタッフ

〔美術〕 猪股孝之

〔照明〕 真庭真一

〔音響〕 具志堅重由美

〔衣装（神）〕 あつらえ工房 康

〔字幕〕 コパン

〔舞台監督〕 大浜暢裕

〔演出助手〕 知花令磨、仲嶺夕理彩、堀川裕貴

〔バリアフリー字幕〕 渡久地準

〔字幕作成〕 比嘉啓和

〔宣伝美術〕 森田光則・テイ シシユン（GYOKU）

〔宣伝写真〕 大城洋平

〔制作〕 前西原祥子

那覇文化芸術劇場なは一と

〔技術統括〕 大塚聖一

〔プロデューサー〕 土屋わかこ

〔制作〕 平岡あみ、池根愛美

〔広報〕 山上順子

〔管理運営〕 那覇文化芸術劇場なは一と

〔舞台技術〕 有限会社新舞台

〔劇場案内〕 株式会社沖縄コングレ

〔託児〕 すけっと in ナハ

〔企画制作〕 那覇文化芸術劇場なは一と、シアター・クリエイト株式会社

〔主催〕 那覇市

〔アフタートーク登壇者〕

嘉数道彦、林立騎（なは一と） 進行：新井章仁（劇団ビーチロック 主宰）